

医療機器で明日を創る

フクダ電子

2026年3月期 決算概要 & 中期経営計画ローリング

2026年5月22日 フクダ電子株式会社（証券コード：6960）

- 2026年3月期 決算概要
- 中期経営計画・業績目標
- 2027年3月期 業績予想
- 株主還元方針

2026年3月期 決算概要

▶ 業績計画達成

医療機関を取り巻く経営環境が厳しさを増す中、設備投資系製品は伸び悩んだものの、在宅レンタル事業、消耗品や保守などのランニングビジネスは堅調に推移。

その結果、売上高、各利益において目標を達成。

▶ モノづくり改革への取り組み

継続的な開発投資や白井事業所新棟の稼働を通じ、持続的成長を支えるモノづくり基盤を強化。

自社AEDの投入などの内製化や、継続的なコストダウンへの取り組みにより、利益創出のエコシステム構築を推進。

▶ 組織力向上のための継続した人的投資

ベースアップの実施や働きがい改革、社員育成を目的とした研修体系の充実など、優秀な人材の維持・確保に向けた人的投資を継続。

2026年3月期 通期業績ハイライト

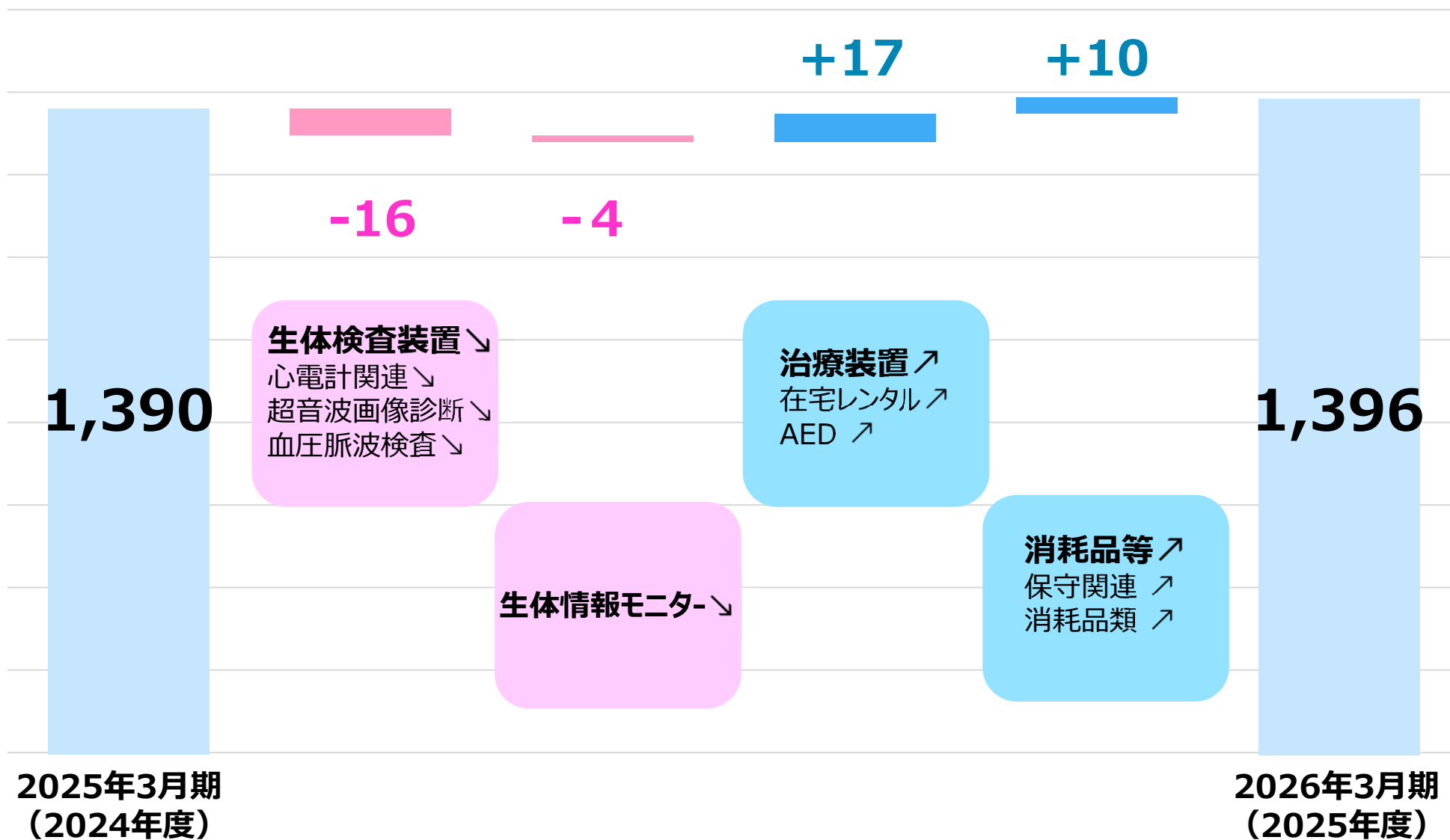
	2025.03 (24年度)	2026.03 (25年度)	
売上高	1,390億円	1,396億円	+6.9億 (+0.5%)
営業利益	258億円	266億円	+7.3億 (+2.8%)
営業利益率	18.5%	19.0%	+0.5%
経常利益	266億円	273億円	+7.0億 (+2.7%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	186億円	187億円	+1.8億 (+1.0%)

▶為替影響度(1円円安の影響) ドル:1.0億円のマイナス※ ユーロ:0.1億円のマイナス

※2027年3月期はドルについて為替予約を実施 影響度1.0億円→0.6億円

売上高の増減内訳

単位：億円



セグメント別実績の概況

構成比%
(前期比%)



生体検査装置 売上高 269億円(前期比▲5.6%)
営業利益 43億円(前期比▲8.5%)

心電計関連、自動血球計数装置、血圧脈波検査装置等の売上高が減少

19.2
(▲1.2)



生体情報モニター 売上高 93億円(前期比▲4.8%)
営業利益 17億円(前期比+0.9%)

感染症対策補正予算終了後は減少傾向が継続

6.7
(▲0.3)



治療装置 売上高 636億円(前期比+2.8%)
営業利益 139億円(前期比+6.6%)

在宅医療が伸長、AEDは自社製品を投入したものの、既存仕入製品との併売のため、影響は限定的

45.6
(+1.0)



消耗品等 売上高 397億円(前期比+2.7%)
営業利益 66億円(前期比+4.1%)

空気清浄除菌脱臭装置は減収となったものの、電極などの消耗品、修理保守などのランニングビジネスは増収

28.5
(+0.6)

営業利益の増減内訳

単位：億円

+27

-9

-10

258

粗利益増加
在宅レンタル↑
消耗品等 ↑

人件費増加

経費増加
研究開発費
減価償却費

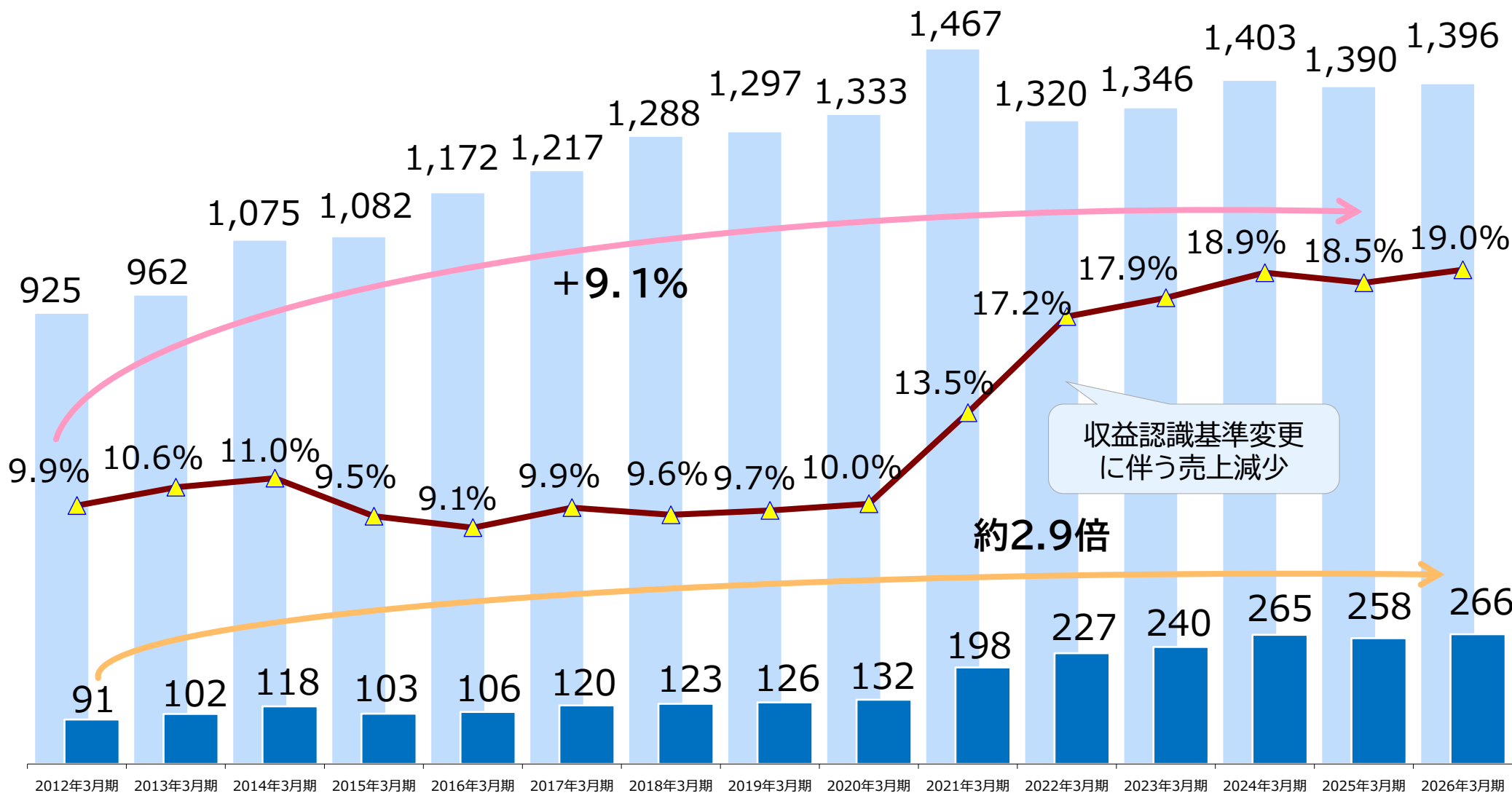
266

2025年3月期
(2024年度)

2026年3月期
(2025年度)

売上高・営業利益の推移

感染症対策関連の補正予算により業績向上後も、継続的なコストダウンへの取り組みなどにより、利益水準を維持。

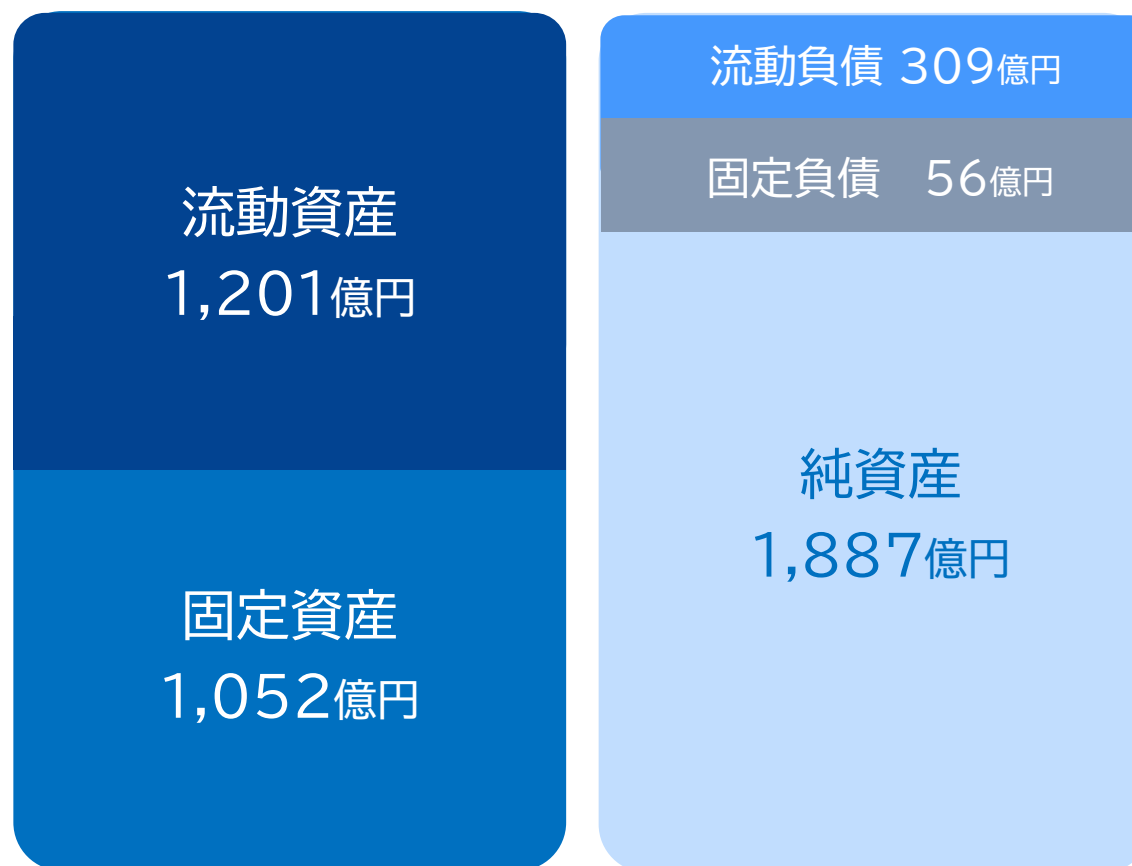


2026年3月期 連結貸借対照表

医療機器メーカーとしての安定経営の実現と、事業提携やM&Aなどの成長投資に備えて現預金を確保、着実に持続的な成長を目指す

自己株式の取得などにより現金及び預金は、前期比で66億円減少

白井工場新棟建設に伴う設備投資や在宅医療レンタル機器、投資有価証券の増加などに伴い、固定資産は110億円増加



自己資本比率
83.8%
(前期比+1.7%)

【総資産 2,253億円】

中期経営計画

- ▶ 高齢者の急増から現役世代の急減に局面が変化、医療従事者の働き手不足の顕在化
- ▶ 人口減少社会を背景に地方の衰退と都市部への集約化(地域間格差)
- ▶ これまでの病床の機能分化・連携に加え、外来・在宅・介護の連携、人材確保等を含めた、あるべき医療提供体制の実現に資する新たな地域医療構想の策定
- ▶ 2026年度診療報酬改定は、本体+3.09%※の大幅増も、賃上げ・物価高騰への原資補填が主
- ▶ コスト増(原材料費、人件費など)に加えて、中東情勢など地政学リスクの高まりによる供給不安増大

※2026年度(+2.41%)、2027年度(+3.77%)の平均

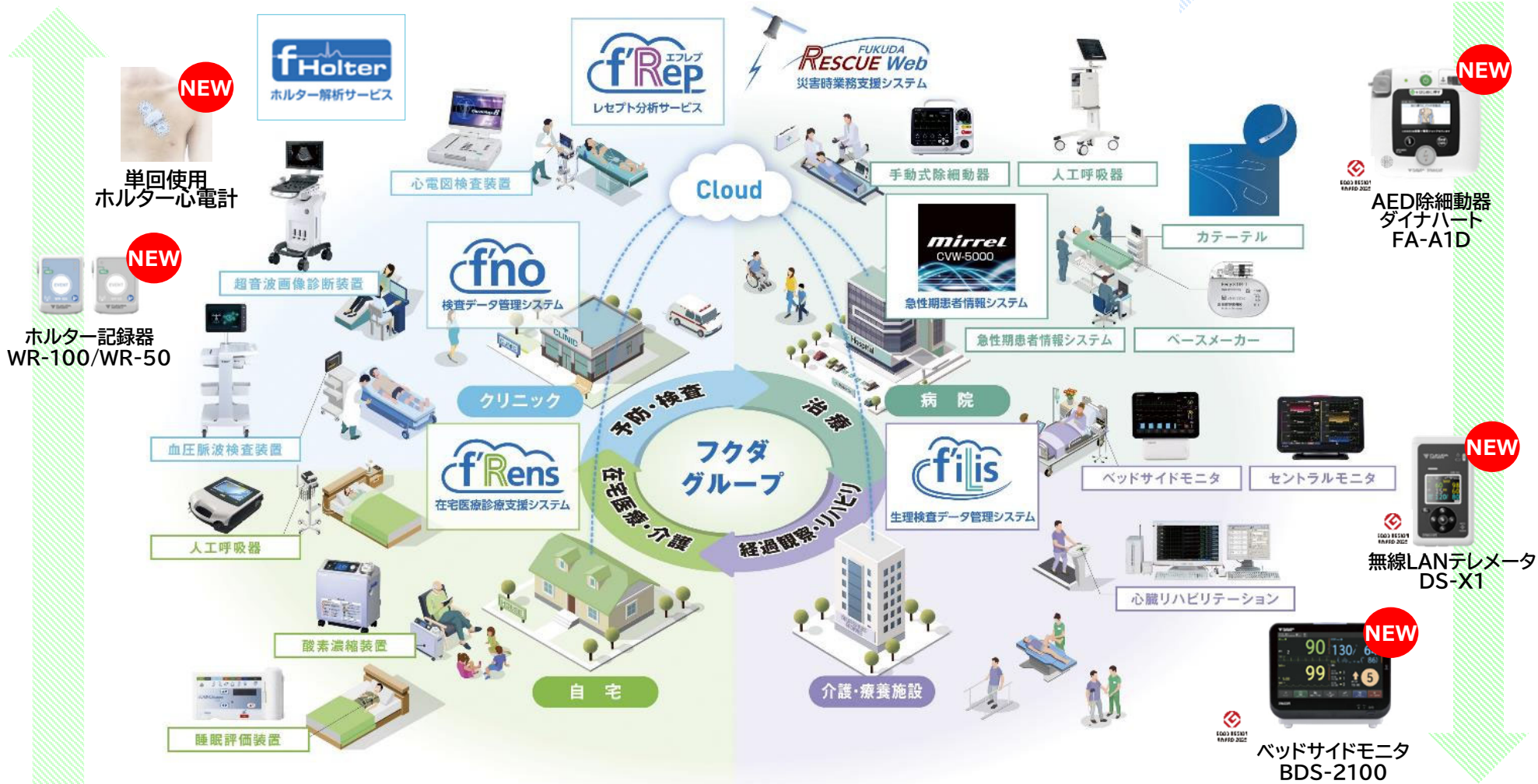
お客様第一主義を基軸に、グループ内連携を強化し、新たな価値を生み出し続けながら、持続的成長を目指す

- 循環器・呼吸器分野における強みを生かした事業展開
 - ▶ ICTを軸とした幅広い製品・サービス展開
 - ▶ 地域に密着した販売・サービス網の更なる充実
- モノづくり改革の推進
 - ▶ 自社製品比率の伸張・現行約40%から50%へ
- ランニングビジネスの取り組み強化
- 社内DX推進を含めた労働生産性向上
- 継続的な人的資本投資、働きがい改革の推進

循環器・呼吸器領域を網羅した事業展開

予防・検査

治療

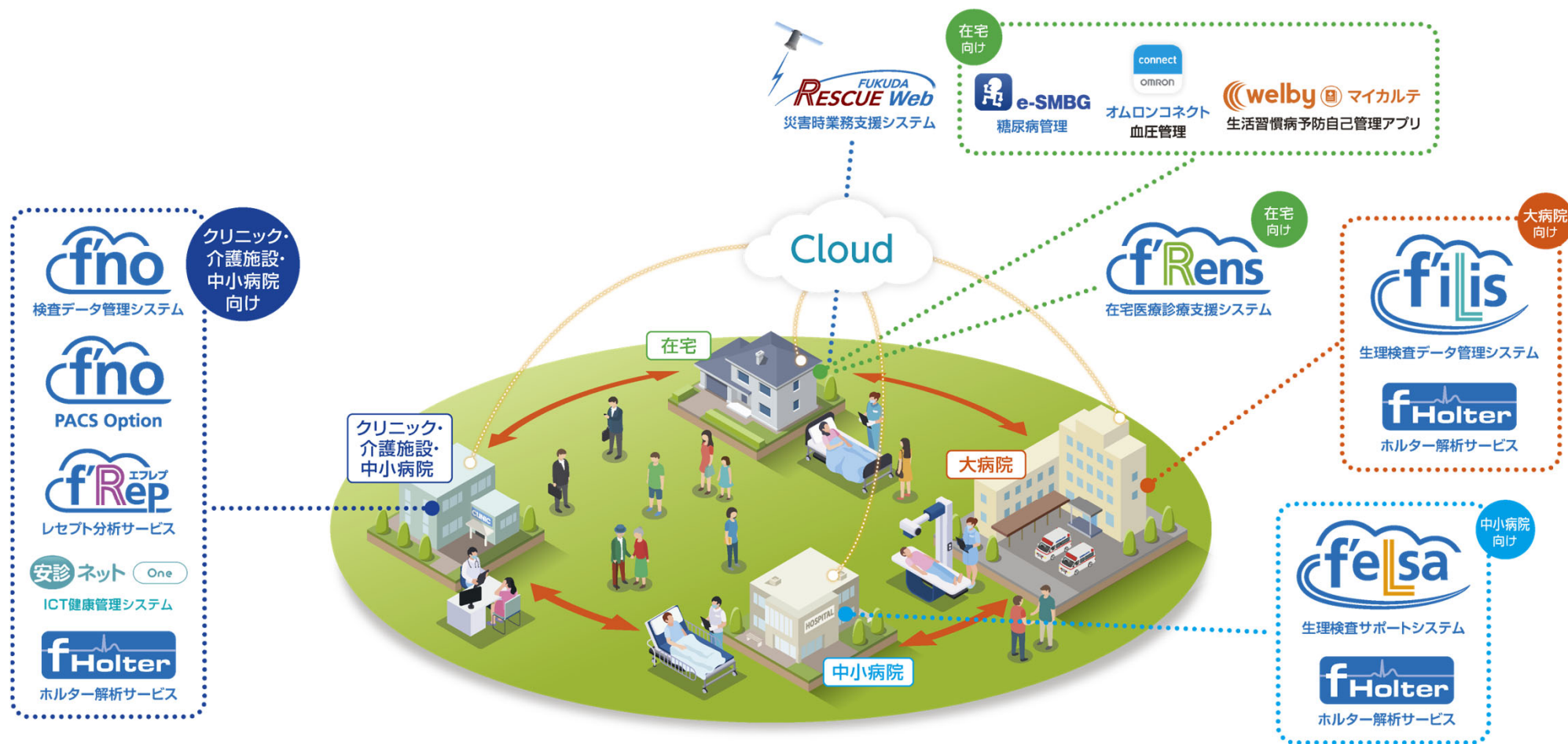


在宅・介護

経過観察・リハビリ

ICT・クラウド ソリューション

医療DXを見据え、医療機器専門メーカーのフクダ電子グループだからこそ実現可能な医療現場と在宅をつなぐ、ICT・クラウドのトータルソリューションをご提案



7日間記録 単回使用ホルター心電計「Liz(リズ)」



薄型・軽量・防水※のパッチ型心電計で、日常生活下における心電図を長時間・連続的に記録、クラウド活用などで運用を簡便化することで、医療従事者と被検者双方の負担軽減を実現

※防水性能IPX5対応



単回使用ホルター心電計Liz LZ-J01

院内解析の 手間を削減

専用Webサイトからクラウド上のデータを参照するため、複数の端末から閲覧できます。

検査から結果確認まで



診断フロー例

CardiMax 9 Ai

CardiMax9Aiを使用しホルター心電図検査へスムーズに進むことで、発作性心房細動の早期発見が期待できます。

AI解析

AI心電図解析による心房細動リスクの推定

L (Low)	ML (Middle-Low)	MH (Middle-High)	H (High)
可能性が非常に低い	可能性が低い	可能性がある	可能性が高い

CardiMax 9 Ai

心電図検査装置 [解析付]
FCP-9900Aiシステム
医療機器承認番号:306008ZX00127000
販売名:カーディマックス FCP-9900Aiシステム
管理医療機器 特定保守管理医療機器



国内初

長時間ホルターによる記録&解析

リスク推定のクラスがMHまたはHの場合はホルター心電計による長時間心電図検査に移行

Liz
LZ-J01
7日間記録



eMEMO
WR-50/100
最大7/14日間

医療機器認証番号:307AD8ZX00071000(WR-50)
医療機器認証番号:228ADBZX00113000(WR-100)
販売名:ホルター記録器 eMEMO WR-50
ホルター記録器 eMEMO WR-100
管理医療機器 特定保守管理医療機器



ホルター型心電図検査 1,730点+320点(2026年度新設:7日間以上)=2,050点

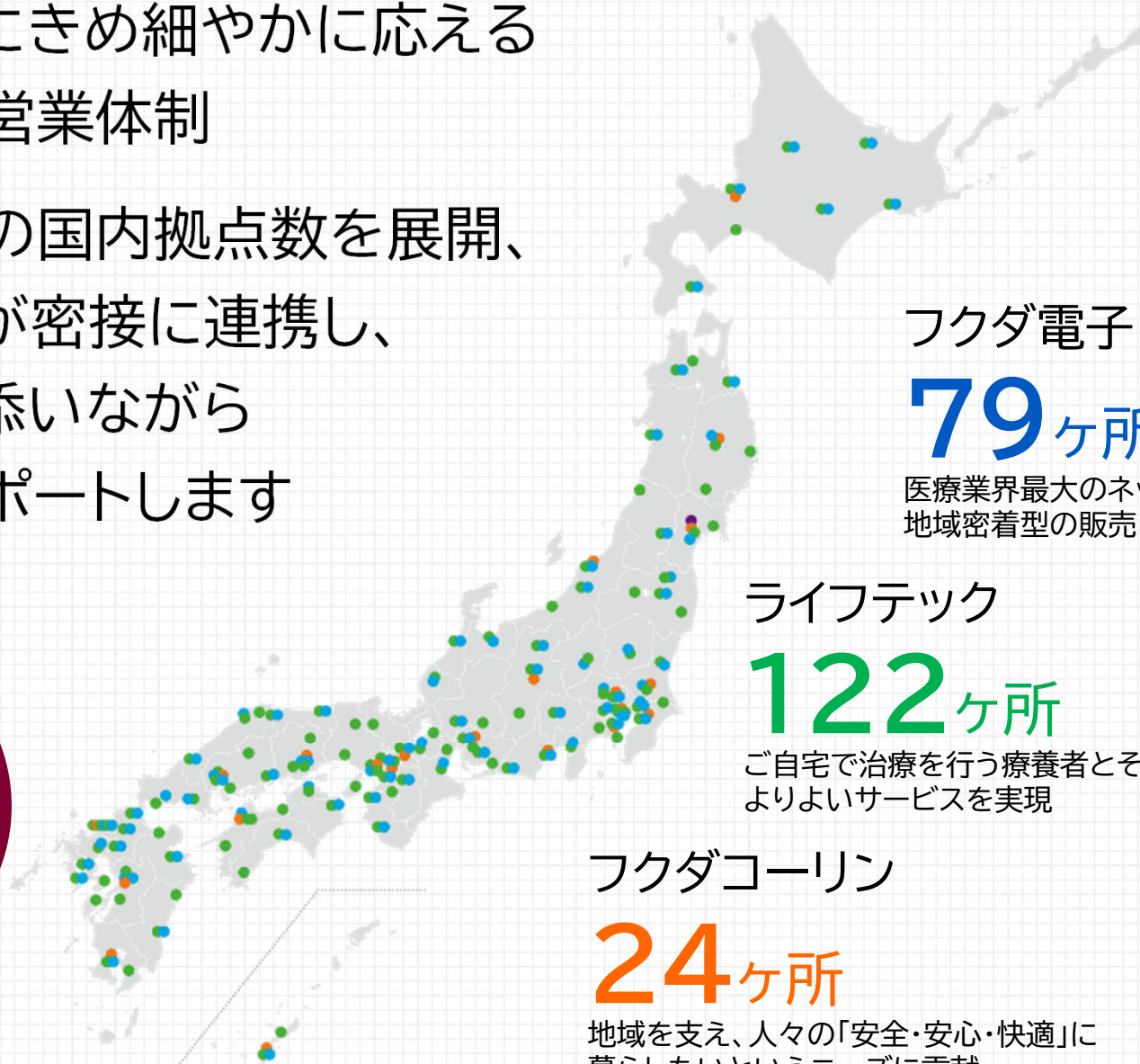
地域医療を支えるネットワーク

地域のニーズにきめ細やかに応える
地域密着型の営業体制

業界最多規模の国内拠点数を展開、
グループ会社が密接に連携し、
お客様に寄り添いながら
地域医療をサポートします

全国合計
225カ所

2026年4月現在



フクダ電子

79ヶ所

医療業界最大のネットワークで
地域密着型の販売とサポート

ライフテック

122ヶ所

ご自宅で治療を行う療養者とそのご家族の方々に、
よりよいサービスを実現

フクダコーリン

24ヶ所

地域を支え、人々の「安全・安心・快適」に
暮らしたいというニーズに貢献

モノづくり改革への取り組み

内製化推進 新たな顧客価値の創出

SCM最適化 戦略的調達、物流改革、在庫最適化

市場品質向上 QMS再構築、CAPA※定着

※Corrective Action & Preventive Action (是正・予防処置)

開発プロセス最適化 エンジニアリングチェーン改革

ソリューションビジネス推進 DX活用、モノづくりとコトづくりの融合

海外事業基盤整備 市場環境に合わせた体制再構築

内製化の推進

製品の安定供給やコストダウンを見据え、中長期的に自社製品比率の改善を目指します(現行約40%→50%)

安全・安心はもちろんのこと、医療現場の人手不足にも寄与する、使いやすく、デザイン性に優れた製品・サービスをご提案していきます

AED(自動体外式除細動器)

生理検査データ管理システム

ベッドサイドモニタ/無線LANテレメータ

DYNAHEART 国産
ダイナハート

f'ilis
フィリス

DYNASCOPE
ダイナスコープ



FA-S1D

FA-A1D



f'ilis(フィリス) MBF-2000



BDS-1100システム



BDS-2100システム



DS-X1



自動体外式除細動器(AED)「DYNAHEART FA-S1/FA-A1 series」、生体情報モニタ「DYNASCOPE BDS-2100」、生体情報モニタ「DYNASCOPE BDS-1100」、医用テレメータ「DYNASCOPE DS-X1」、生理検査データ管理システム「f'ilis(フィリス)」の5製品が、公益財団法人日本産業デザイン振興会が主催する「2025年度グッドデザイン賞」を受賞

中期業績目標

2029年3月期(2028年度)目標

連結売上高	連結営業利益	連結営業利益率	自社比率(売上高比)
1,500 億円 ※1,396億円	285 億円 ※266億円	18% 以上 ※19.0%	50% 以上 ※約40%

※2026年3月期(2025年度)実績

収益力

内製化、ランニングビジネス強化、適正価格販売などの取り組みを加速

成長
投資

価値
創出

持続的
成長

モノづくり力

お客様第一主義を基軸に
SCM最適化、品質向上、
開発プロセス最適化などの実現

財務

医療機器メーカーとして安定的な財務基盤を構築、
運転資本の最適化、事業資産の有効活用など

2027年3月期 業績予想

2027年3月期 業績予想

	2026.03 (25年度)	2027.03 (26年度)	
売上高	1,396億円	1,420億円	+24億 (+1.6%)
営業利益	266億円	255億円	▲11億 (▲4.2%)
営業利益率	19.0%	18.0%	▲1.0%
経常利益	273億円	255億円	▲18億 (▲6.7%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	187億円	177億円	▲10億 (▲5.8%)

▶想定為替レート ドル:160円(前期150円) ユーロ:190円(前期160円)

2027年3月期 設備投資等 予想

	2026.03 (25年度)	2027.03 (26年度)	
設備投資(CFベース)	199億円	198億円	▲1億 (▲0.4%)
減価償却費	118億円	135億円	+16億 (+13.6%)
研究開発費	47億円	49億円	+2億 (+4.7%)

設備投資(CFベース)

・在宅レンタル事業の拡大、工場系設備投資ひと段落

減価償却費

・在宅レンタル事業の拡大など

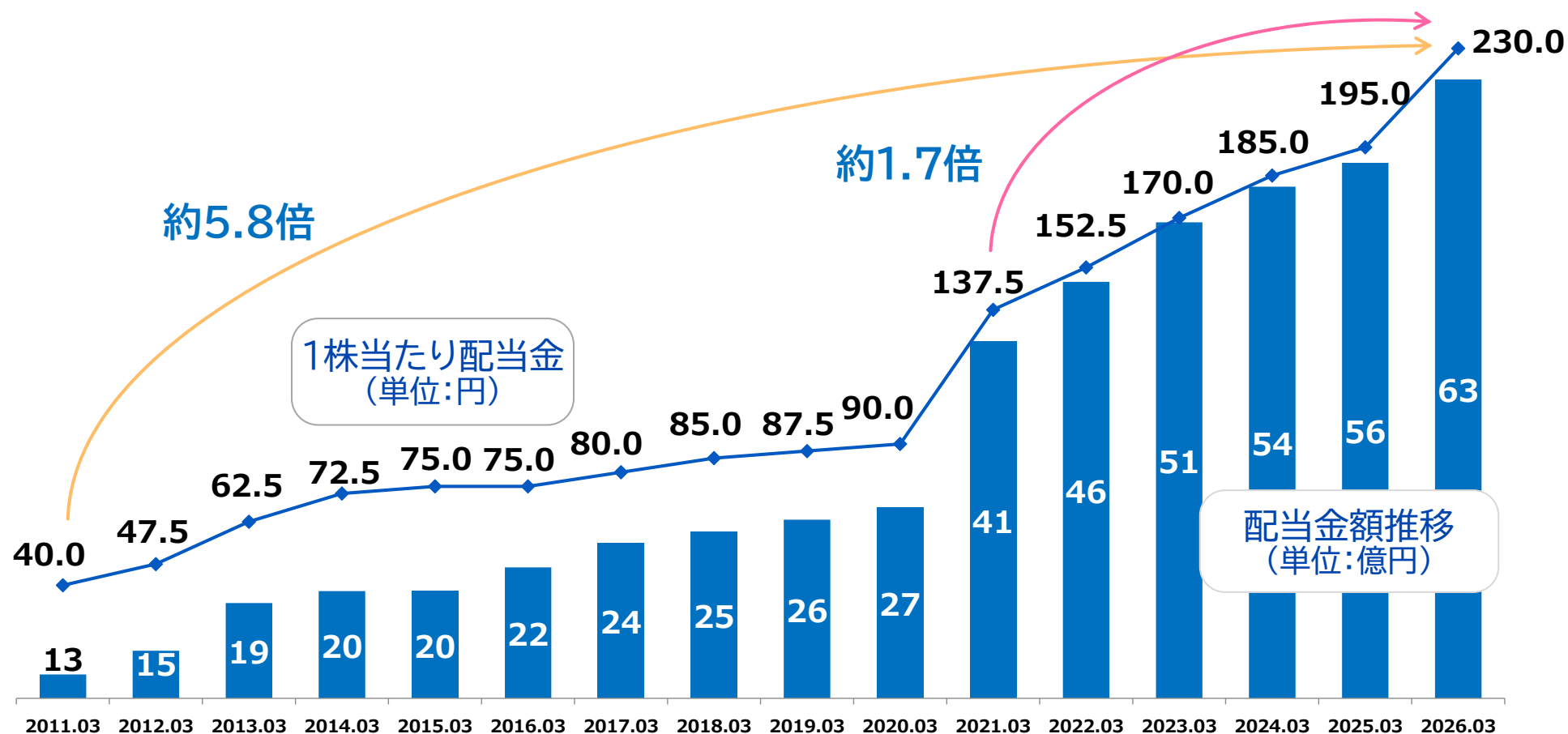
研究開発費

・将来成長に向けた積極的開発投資

株主還元と今後の方針

利益成長により、1株当たりの配当金の着実な増加(15年間で約5.8倍、5年間で約1.7倍)を実現

新たな事業に向けた戦略投資に備えつつ、配当性向35%を目標とする



※当社は2022年11月30日を基準日および12月1日を効力発生日として普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施

※グラフは分割後基準で表示、配当金は当該株式分割の影響を考慮し調整

[お断り]

この資料に記載されております業績予想数値は、当社および当社グループの事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を及ぼす要因について、現時点で入手可能な情報に基づいての見通しであり将来に亘る部分については、皆様の投資のご参考にご提供をさせて頂くものです。

同数値については市況、競争状況、新製品および商品の投入状況など多くの不確実な要因の影響を受け予想と異なる結果になることがあるため、保証をお約束するものではありません。



本資料に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

経営企画部：鈴木・吉田
TEL: 03-5684-1558 FAX: 03-5684-1577
email: info@fukuda.co.jp